

巻頭言

高松赤十字病院紀要第7巻の発刊にあたって

高松赤十字病院 院長 網谷 良一

この度『高松赤十字病院紀要 第7巻』を刊行しました。平成25年の創刊以来、掲載論文は年々増加し、今回は原著論文や症例報告等を合わせて18篇が掲載されています。論文を介した情報発信の重要性を多くの職員の皆さんが理解していただいていることをたいへん嬉しく思います。18篇の個別の解説は省きますが、診療科はもとより看護部、薬剤部、検査部から現場の実地経験に基づいた意義深い発表が為されています。すぐさま日常業務に活かせる知見を含んだものばかりですので職員の皆さんには是非一度読んでいただきたいと思えます。

今回は研修医の発表の多さが目立ちました。おそらく論文発表は初めてであろうと推測しますが、医師としての研修中の早い時期に指導医の適切なサポートを受けながら相応の時間と精力を注いで論文化したという貴重な経験は今後の診療や研究に大きな刺激を与えてくれるものと確信します。初期研修医の皆さんに限らず中堅・若手医師さらにはベテラン医師の皆さんにも本紀要を大いに活用していただくよう希望します。

診療科以外の各部門の皆さんから毎年多くの論文を投稿していただいております。現場での貴重な経験や想定を超えて生じた苦い経験に関する発表、あるいは長年の経験の蓄積に裏打ちされた取り組みや全く新たな発想に基づいた取り組みなど、本誌面で今後とも積極的に発表していただくことを期待します。

今回あえて私から職員の皆さんへの報告として『高松赤十字病院活性化に向けての取り組み』という1篇を投稿させていただきました。過去5年半余りの院長在職期間中に職員の皆さんとアイデアを絞り出し工夫し合っ様々な取り組みを進めてきましたが、それらの結果や評価を含めてあらためて整理してみました。当初は本誌掲載には向かないとも感じましたが、あらためて振り返ることでこれからの病院運営に幾らかでも参考になれば幸いと考え、まとめてみました。

職員の皆さんには今後とも『高松赤十字病院紀要』をはじめとして、国内外を問わずそれぞれの専門領域の公式雑誌にも積極的に発表されることを願っています。論文発表には少々辛い作業が伴いますが、その努力は様々な形で報われます。皆さんのご健勝ご活躍を心より祈念致します。